

台湾原住民の伝統的住居における BIM を用いた継承の研究
～台湾蘭嶼タオ族の伝統的住居を事例として～

論文要旨：

世界各国のあらゆる地域では、国際化社会の中で、いかに地域性を保持し開発するべきかという難しい問題に直面する事例が増えている。人やモノ、資本が国や地域を超え激しく往来し、ソーシャルネットワークの拡大とともに人々の価値観は均質化してきた。建築物においては、地域の特性が見られなくなり、本研究の対象敷地である台湾蘭嶼も伝統的住居の数が減っている。はじめて、この島を訪れたときに感じた“違和感”がこの研究を始めるきっかけとなった。全く様式の異なる住居の立ち並ぶ姿に、伝統的住居を残したいと思いながらも、そうすることの出来ない蘭嶼の人の葛藤が村の風景から感じ取れた。

本来、建築物はその土地で生まれ育つもの。伝統建築の多くは、地元の材料が使われ、施工技術や空間様式もその地に即している。また、伝統建築は先祖の多大なる知恵の集積物でもあり、地域の文化的思想を多く含む。文化保護を目的とし、伝統建築の保全活動が各地で見られる中、本研究は台湾台東県蘭嶼にあるタオ族の伝統的住居を対象として、「伝統的住居における文化継承の方法論の構築」を目的とする。

本研究では、施工現場の参与観察や現地でのヒアリング調査を経て、伝統的住居の継承の衰退の問題点は「伝統継承の基盤の脆弱性と価値観の変化」によるものだと発見し、情報技術を用いた伝統的住居の文化継承の方法論を述べる。かつては、口承による継承を行っていたが、時間と場所に限定的なこの継承方法では持続が難しくなっている。時間と場所を選ばないという情報技術の特性はこの問題への解決策の糸口を持っている。

タオ族の伝統的住居に特化した BIM (Building Information Model) を試作し、模型実験と現地のニーズ調査から、BIM による文化継承の有効性を示唆した。BIM を伝統建築に利用する事例は少ないが、伝統建築にこそ利用されるべき価値があった。それは、BIM には、①「伝統の抽出」、②「作業の効率化」、③「発展的伝統の創造」に寄与できる技術があるからである。BIM を用いて、伝統の本質を見極め、現実空間に伝統を継承した建築が施工されることで、持続的に伝統を再構築した空間を創り出すことが出来るだろう。本研究は、タオ族の伝統的住居が継承され続けるための方法論を提示したはじめての研究にすぎない。

キーワード：

1. 蘭嶼 2. タオ族 3. 伝統的住居 4. 文化継承 5. BIM

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
立山 蘭